

1 はじめてのハームリダクション： 今、世界で激論中

ハームリダクションをめぐる国際的なディスカッション

「処罰ではなく、支援を」¹⁾

このメッセージは薬物問題への向き合い方を変革しようという世界的なキャンペーンのもので、私自身が、あるいは私の身近にいる大切な人がドラッグの使用で困っているとき、処罰ではなく支援があってほしいと願います。同じように思う人たちがこのキャンペーンを通して世界中で声をあげています。多くの国や地域では、支援が欠乏し処罰されているというのが現状なのでしょう。そして、処罰によって良い方向に変わってきたわけではないことが、変革を求めるアクションを呼び起こしているのでしょう。なぜ処罰するのか、なぜ犯罪とみなすのか、それは日本だけの話ではありません。この国際的な流れはどこからくるのでしょうか。もっと知りたいと思い学び始めました。

国際的な取り組みの基盤となっている3つの条約があります。外務省のウェブサイトで紹介されています²⁾。1961年から1988年にかけてできあがり、日本も含め180カ国以上が批准しているものです。条約の前文は「人類の健康及び福祉に思いをいたし」という文言で始まります。読み進めていくと刑罰規定についての記述が出てきます。個人での使用については次のように書かれています。「個人的な使用のために故意に所持し、購入し、または栽培することを犯罪とするための必要な措置をとる」。半世紀ほど前から整備されてきた取り組みは、犯罪とみなしどのように処罰するのかというものでした。

これらの条約のもと処罰による取り組みが世界中に広がり、少なくとも数十年続いてきました。ところが世界の麻薬問題をめぐる状況は良くなる気配をみせません。この対策は効果的ではない、状況が悪化している、という批判も出てきました。その中で、個人的な使用のためであれば、犯罪とみなさない/処罰しないという国や、規制を設けて大麻の使用を認める国が出てくるようになりました。

2016年4月に米国ニューヨークの国連本部にて麻薬特別総会（UNGASS）が開

催され、そこに参加しました。処罰なのか支援なのか、世界ではどのように議論されているのか知りたかったのです。この特別総会は過去に2回開催されたようで、今回は18年ぶりに開かれました。世界の麻薬問題に関連する会議ですので、ドラッグの使用に関することに加えて、供給への対策、けしなどの農作物の生産者に対する介入なども議題にあがっていました。個人の使用に関して幅広く議論されていたことの1つがハームリダクションです。ハームリダクションは効果的だと主張する国もあれば、断固反対であると訴えた国もありました。どうしてそこまで意見が分かれるのか、ハームリダクションには議論を呼び起こす何かがあるのは確実です。

ハームリダクションとは

①ハームリダクションの定義

ハームリダクション (harm reduction) の定義として、次のものがあります。これは国際的な NGO (Harm Reduction International) が示しているものです³⁾。

『違法であるかどうかに関わらず、精神作用性のあるドラッグについて、必ずしもその使用量は減ることがなくとも、その使用により生じる健康・社会・経済上の悪影響を減少させることを主たる目的とする政策、プログラム、そして実践である』

ハームリダクションを直訳すると、被害 (harm) を減少させること (reduction) となります。その被害というのは、薬物使用により生じる健康・社会・経済上の悪影響 (ダメージ) です。ドラッグを摂取した結果、例えば中毒症状が出たり依存症になったり (物質使用障害) すれば、それは健康的なダメージです。摂取するための器具 (注射器やあぶりのためのスプーンなど) を使い回すことで感染症 (HIV 感染や肝炎ウイルスの感染など) に罹ることもそうです。そしてもっとも重い被害は過剰摂取などで命を落とすことです。

社会的な被害の例としては、ドラッグを使うことで周囲との人間関係が悪くなること、無職になったり退学になったりすること、ホームレスになることなどがあります。これらは使用当事者自身の社会的なダメージです。また、地域で感染症が広まる、注射器具などが公共の場で捨てられていて衛生状況が悪化する、ドラッグを購入するために窃盗が発生し治安が悪くなる、ドラッグの裏取引のために政治的な不正・汚職が行われるなど、地域社会に及ぼすダメージもあります。さらに、ドラッ

グ使用者に対する社会的差別やスティグマが強化され、使用者や家族などの人権が貶められるという深刻なダメージもあります。

経済的な被害には、健康や社会的なダメージが増すことで、その対策のためにより多くの税金が投入されることなどがあてはまります。例えば、感染症が拡大し医療分野の公費負担が増額する、無職やホームレスになった人のために福祉分野の公的負担が増える、ドラッグの流通が増加しその摘発・取締りのために多額の公的資金が投入されることなどがあります。

ハームリダクションが着目するのはドラッグの使用量ではなく、上記のようなダメージの量です。使用が止まってもいいし、止まらなくてもいいけれど、被害は少しでも抑えよう、ということです。重度の物質依存など何かしら深刻な状態にあり、体に入れるのを防ぐことが必要になる場合もあります。それはまさに断薬を目指すものです。断薬とハームリダクションの関係性については後述しますが、ハームリダクションは断薬を否定するものではなく、補い合うものです。

また、ハームリダクションは社会レベルにおいても被害の低減に着目します。薬物の使用量がゼロになる・完全になくなることを必ずしも目指すものではありません。もし、この社会においてドラッグの使用量をゼロにすることができるのだとすれば、それはどのような方法で実現できるのだろうかと考えます。供給する側をゼロにする/使用する側をゼロにする、という切り口が頭に浮かびます。前者はドラッグを製造・流通・販売などする人を排除することです。そうした対策について国際的な取り組みがなされてきています。ただ、ドラッグの供給量は実際にはなかなか減っていません。一方で、ドラッグの生産者（けし農家など）の暮らしを破壊するのではなく、いかに保護するのか、という国際的な取り組みがあります。このような動向はハームリダクションに基づくものです。

では、ドラッグを使用する側をゼロにすることはどうでしょうか。それは誰もがドラッグを使わなくなるということです。そこで、ドラッグを使うことを犯罪とし、使用する人が社会からいなくなるようにしようという方策が国際的に展開されてきました。つまり犯罪者として社会から排除するというものです⁴⁾。世界各国でこうした対策が試みられています。それにもかかわらず世界中でドラッグを使う人の数は上昇傾向にあります⁵⁾。ドラッグを使う人の中には依存症という精神障害（物質使用障害）を抱える人たちがいます。この社会からドラッグを使う人を消そうとい

うのであれば、精神障害を抱える人の排除も目指すのかという問いへの回答が求められます。人間を排除するのではない、ドラッグ使用により依存症になるのを抑えるのだという回答であれば、それはまさしくハームリダクションです。そのためには犯罪者として人を排除する必要はなく、健康問題として、依存症という健康的なダメージが減ることを目指すことができるはずです。

ここまでをまとめますと、ドラッグの使用（量）を根絶しようと訴えることは、非現実的であると同時に、人を排除するという意味も含みかねません。ハームリダクションはドラッグの使用量そのものがゼロになることを目指していません。その使用により生じる健康・社会・経済的な被害を減少させることを目的としています。そして、ハームリダクションはその目的で行われるプログラム・政策・実践なのです。

②ハームリダクション・プログラム

ハームリダクションによるプログラムは断薬を目指すものではありません。断薬を目指すプログラムはすでに日本でも数多く実施されていて効果をあげています。ダルク（薬物依存回復支援を提供する NGO）や NA（ナルコティクス・アノニマス）など 12 ステップやセルフヘルプに基づく回復のプログラム、認知行動療法をベースにしたプログラム、心理カウンセリングや精神科医療で実施される薬物依存症の治療回復プログラムなどがあります。こうしたプログラムは断薬を目指すのに効果的なプログラムです。同時に、ドラッグを使う人すべてに効果があるわけではありません。たとえばアルコールで依存症になる人がいます。依存症治療のために断酒を目指すプログラムがあります。それはアルコール依存で困っている人にとって効果的なプログラムです。ですが、アルコールを飲む人すべてを対象にしているわけではないはずです。多くの方はアルコールを飲んでも依存症になりません。ですので、その場合は断酒を目指す必要がありません。仮に断酒を目指すプログラムに参加しても馴染むことはないでしょうし、断酒しようということにもならないでしょう。そして、それは自然なことだと言えます。断酒を目指すプログラムはそうした人を対象にデザインされていないからです。

覚せい剤などのドラッグを使う人のうち、すべての人が依存症などの物質使用障害をもつわけではありません。むしろ、ほとんどの人はそうなっていません。2016

年に発表された国連の報告では、過去1年間にドラッグを使った人のうち、物質使用障害があるのは11.7%です(図1-1⁵⁾。つまり、断薬を目指すプログラムというのは、この約12%の人たちを対象にデザインされていることとなります。9割近い人たちはドラッグを使うけれど使用障害がない状態です。この人たちには断薬を目指すプログラムは馴染みません。そして、この約12%を占める人たちのための断薬を目指すプログラムは、使用障害(ただちに止めることが不本意または不可能)があるゆえに利用されにくいという悩ましさを併せ持ちます。

そこでハームリダクションが登場します。依存があるから断薬を目指すプログラムにはつながりにくい。それならば、必ずしも断薬にこだわらないプログラムをデザインすることができます。また、使用障害を持たない9割近い人たちにとっても、断薬にこだわらないプログラムであれば、馴染むことができます。

代表的なハームリダクション・プログラムとして、注射器の配布、薬物代替療法、薬物使用センターがあります⁶⁾。注射器の配布とは、衛生的な(未使用の)注射器を配布することです。使用済みの注射器と交換するスタイルもあります。薬物代替療法とは、違法なドラッグの代わりに治療薬として麻薬を処方することです。薬物使用センターとは、持参したドラッグをより安全に、健康的に使用するための保健施設です。医療の専門家などが常駐しています。これらは科学的に効果が実証されているものとして世界各地で実施されています。このようなハームリダクション・

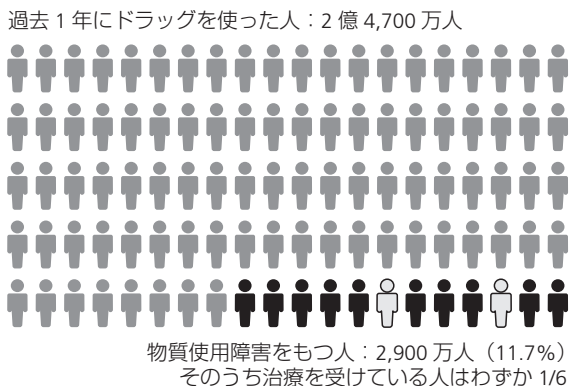


図1-1 World Drug Report 2016⁵⁾より
国連薬物・犯罪事務所 (UNODC) (著者による仮訳・加工)